



# 映画は総合芸術である

## 喜劇王チャーリー・チャップリン編②

2009.7.17  
実務表現

様々な芸術表現に触れ、感性を磨きましょう。

映画は総合芸術です。

いろいろな芸術表現、文学や音楽、  
絵画、演劇、そして歴史、政治、法律  
といったあらゆる要素が映画に集約  
されているのです。

# 『キッド』The Kid (1921年)



キッドは、1921年に公開されたサイレント映画。監督・脚本・主演(サウンド版では音楽も)チャーリー・チャップリン、助演ジャッキー・クーガン。

キッドは、50カ国以上で上映されることになりました。

この作品では、孤児の扱いについて、社会問題を提起しています。

この映画は、過去の映画と違った形式の映画になりました。ドラマティックな要素が増え、コメディの要素が少なくなったのです。

笑いと涙をさそうこのドラマは、観客の心の琴線(きんせん)に触れました。

<http://www.youtube.com/watch?v=IZw9E4CZm2c>

<http://www.youtube.com/watch?v=Xh3z89u1NtY>

# 映画を通して伝えたメッセージ

少なくとも、わたしにとっては  
「キッド」の一粒の涙は、  
オペラの中のバケツ1杯の涙よりも、  
はるかに感動的だった。

わたしは、チャップリンを見て、  
涙が出るほど笑い転げる気にはなれない。  
笑うとすれば、泣き出すのをおそれてのことだ。  
同じ涙でも、意味は全く違う。



ある映画評論家

# ‘下層階級’の少年の夢物語

ひとりの貧しいロンドン子が、  
物理学者のアインシュタイン、  
指揮者のトスカニーニ、  
中国共産党指導者の周恩来、  
詩人のジャンコクトー、イギリスのチャーチ  
ル首相、哲学者のサルトル、画家のピカソ、  
インド独立運動の指導者ガンジーなどと交  
際するまでになりました。



ガンディーとチャップリン1931年9月、ロンドンにて

# ユナイテッド・アーティスツ設立

1919年 俳優のチャールズ・チャップリン、メアリー・ピックフォード、ダグラス・フェアバンクス、監督のD・W・グリフィスによって創立。

彼らは、大手会社の制約に息苦しさを感じ、創造の自由を得て自らの出演作を製作・配給に至る。初期のUAは、製作者の協同組合という性格を持っていました。



1925年『黄金狂時代』※The Gold Rush

1928年『サーカス』The Circus

1931年『街の灯』City Lights

1936年『モダン・タイムス』Modern Times

1940年『独裁者』The Great Dictator

1942年『黄金狂時代』サウンド版

(1925年の『黄金狂時代』に

チャップリン自身の作曲とナレーションを施す)

1947年『殺人狂時代』Monsieur Verdoux

1952年『ライムライト』Limelight

ユナイテッド創立メンバー

(左から)D・W・グリフィス、メアリー・ピックフォード、チャップリン、ダグラス・フェアバンクス

# 『黄金狂時代』 The Gold Rush 1925年

製作・脚本・監督・主演チャールズ・チャップリン。彼の74本目の初の長編喜劇。サイレント作品だが、のちチャップリン自身その再公開に伴奏音楽と効果音を加える。原題「ゴールド・ラッシュ」が示すように、一攫千金(いっかくせんきん)を夢みて各地から人が集まった金鉱発見時代のアラスカが舞台。放浪者チャップリンはここで賞金付き犯人や、黄金を求める大男ビッグ・ジム(マック・スウエン)と巡り会い、そして酒場女ジョージア(ジョージア・ヘール)への手の届かぬあこがれの恋をする。いくつかの見せ場のなかでも、飢えが迫ったチャップリンが自分の片方の靴を食べるくだり、また彼女と食事をとるにしている幻想シーンでの、ロールパンにフォークを突き刺して足に見立てたダンス芸、山小屋が一夜の猛吹雪(ふぶき)のあと崖(がけ)に落ちかけるスリルなどが有名。人間残酷悲劇を喜劇でみせ、愛の美しさを黄金以上の価値としたこの名作は、世界映画史上のベスト・ワンとうたわれたこともある。

〔執筆者：淀川長治〕

<http://www.youtube.com/watch?v=kYpwbhGoujQ>

<http://www.youtube.com/watch?v=QdmKhLldq1Y>

# 『サーカス』The Circus 1928年

「あの映画で、私の顔には恐怖の表情が浮かんでいたが、あれは断じて演技ではなかったのだよ。」

チャーリー・チャップリン

1928年のアカデミー賞名誉賞を受賞。

サーカスを見ていた放浪紳士は、泥棒として警察に追われたことがきっかけで、大道具係としてサーカスに入団。彼は団長の娘に恋をするが、彼女は新しく入団した綱渡り師に夢中。彼女をふり向かせようと、放浪者はひそかに綱渡りの練習をするのだった。そんな中、綱渡りの演目を前にして綱渡り師がいなくなり、放浪者が代役に抜擢される。命綱が外れたりなどのハプニングの中、放浪者はみごとに綱渡りを演じきる。が、娘はそれどころではなく、父親である団長の虐待に耐えかねてサーカスを抜け出す。放浪者は迷った末に、綱渡り師に彼女を託す。綱渡り師は団長から彼女をかばい、彼女はサーカスへの復帰を許された。サーカスの馬車が次の興業へと旅立った後には、ひとり遠くを見つめる放浪者の姿があった。

<http://www.youtube.com/watch?v=08nZ2vsZHL8>

<http://www.youtube.com/watch?v=79i84xYelZI>



# 第1回アカデミー賞の特別名誉賞を受賞

「わずかの人間で決めた賞なんて、  
そうたいした名誉ではない。  
私のほしいのは大衆の喝采だ。  
大衆が私の仕事を賞賛してくれるならば、  
それで十分だ」  
と語り、もらったオスカー像は  
ドアのストッパーにされていた、  
と息子のチャールズ.Jrは回想する。

# 最愛の母の死

母がいなかったら、ぼくはパントマイムの世界で成功しなかっただろう。  
母は僕の知る限り、もっとも偉大な  
パントマイムの芸術家だった。

チャーリー・チャップリン

# パントマイムには国境がない！

映画界では、無声のサイレントから音声のでるトーキーへと移りつつある時代でしたが、  
チャップリンはトーキーに不信感を抱いていました。

‘言葉には国境があるが、

パントマイムには国境がない’

これが彼の持論でした。

# 『街の灯』 City Lights 1931年

放浪紳士はある日、盲目の花売りの娘と出会い一目惚れしてしまいます。彼は、なけなしのお金を工面して彼女から花を買い、手術にかかる費用を少しでも援助しようとしています。その気前の良さに、彼女は放浪紳士のことを富豪と勘違いをしてしまいます。

時は流れ、刑務所から出た放浪紳士は手術の成功した目の治った花売りの娘と再会します。しかし放浪紳士は、花を買っていた紳士は自分だと名乗る勇気がありません。娘は1,000ドルを自分に渡した恩人は金持ちの紳士だと思い込んでいるので、まさかこの浮浪者が恩人だとは思ってもありません。しかし彼女はそのまま立ち去ろうとする放浪紳士に哀れみから花と小銭を手渡そうとします。その時……

<http://www.youtube.com/watch?v=OgAxWibTqCs>

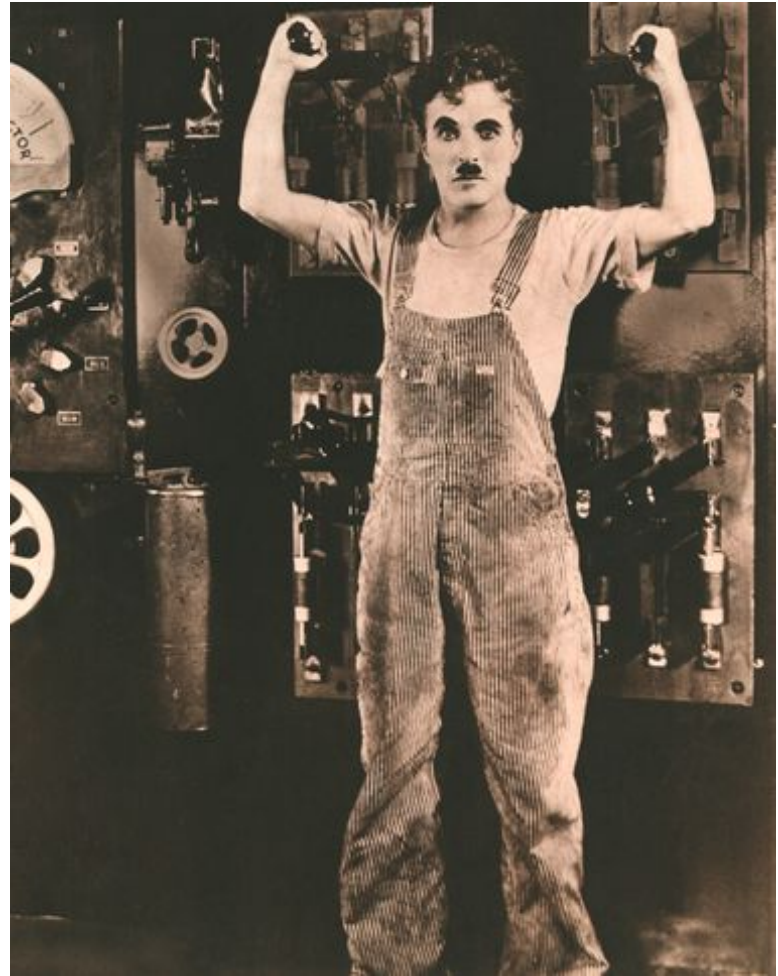
<http://www.youtube.com/watch?v=kpeiPbjDIDs>

# 『モダンタイムス』Modern Times1936年

機会にたよった流れ作業の工場で働く放浪紳士チャーリー。働いているうちに、心身ともにボロボロになっていくというお話です。

ほかの映画で登場する放浪紳士は、貧乏のどん底ですが、この映画では工場の悪条件や低賃金や失業と戦う、普通の人間として登場します。このため、一部の新聞で「モダンタイムス」は共産主義の宣伝映画であると非難されます。

機械化により人間の尊厳が失われていくこと  
に対して問題提起をした映画ともいえます。



**Modern times**

<http://www.youtube.com/watch?v=ljarLbD9r30>

# スクリーンで初めて歌を披露

この「モダンタイムス」は、チャップリンが初めてスクリーンで肉声を発した映画としても有名。

酒場でインチキ外国語による

Je cherche après Titine “ティティーナ”を歌うシーンで、チャップリン自身の歌声を聴くことができます。

「ティティーナ」は、1917年にフランスの作曲家レオ・ダニエルフによって

「Je cherche après Titine」というタイトルで作曲され、本作で使用されて世界的に有名なメロディとなりました。

<http://www.youtube.com/watch?v=eZhSvSvMBgU>

# サウンド・トラック『スマイル』Smile

笑顔の君に太陽は輝く

笑顔でいればきっと明日は見えてくる

チャーリー・チャップリン作曲

ひと組のカップルが、機械文明に冒された町を後にして、人間らしく生きられる幸せな場所を探して旅立つラストシーンです。『スマイル(Smile)』は、「モダン・タイムズ」ラスト・シーンで感動的に用いられています。ナット・キング・コールやマイケル・ジャクソン、ダイアナ・ロスやエルヴィス・コストロらがカバーしています。

歌詞は、「つらくても苦しくても、きっと明日は見えてくる。君が笑顔でさえいれば。」といった内容。

<http://www.youtube.com/watch?v=Ps6ck1ejoAw>

◆ナット・キング・コールのカバー

<http://www.youtube.com/watch?v=r-9VWlvdqq8>

◆マイケル・ジャクソンのカバー

<http://www.youtube.com/watch?v=iu-rLA4POkI>

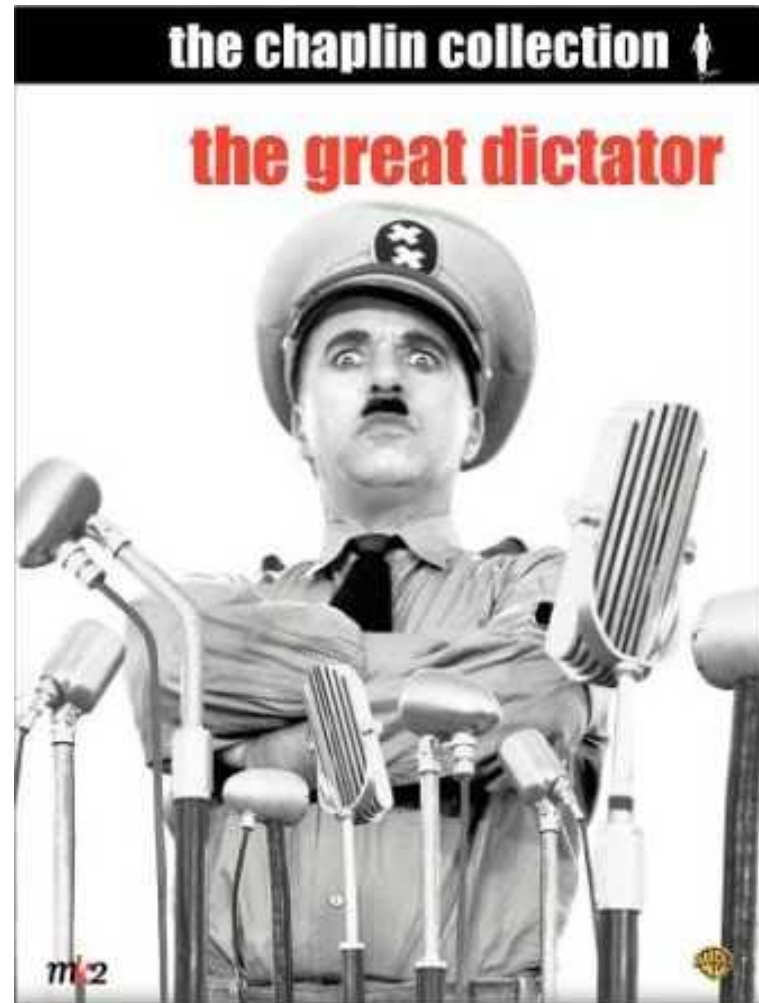
# 『独裁者』Great Dictator 1940年

『独裁者』は、チャップリンが監督・製作・脚本・主演を務め、アドルフ・ヒトラーとナチズムの風刺を主なテーマとしたアメリカ映画。

1940年10月15日にアメリカ合衆国で初公開。1940年当時、アメリカはナチの戦争とはいまだ無縁であり平和を享受していたが、この映画はそんなアメリカの世相からかけ離れた内容だった。ヒトラーとナチズムに対して非常に大胆に非難と風刺をしつつ、ヨーロッパにおけるユダヤ人の苦況をコミカルながらも生々しく描いています。

またこの作品は、チャップリンの「最初のトーキー作品」として有名であり、山高帽・ドタ靴・ステッキの放浪紳士スタイルの最後の作品でもあります。

初公開当時ナチス・ドイツと友好関係にあった日本では公開されず、日本初公開はサンフランシスコ講和条約締結から8年後の1960年です。





一人二役!

# 「ユダヤ人床屋」と「独裁者ヒンケル」

## ①ユダヤ人の床屋名場面

<http://www.youtube.com/watch?v=monaXOpmH1U>

## ②独裁者「ヒンケル」名場面

<http://www.youtube.com/watch?v=IJOuoyoMhj8>

## ③ヒンケルになりすまし演説するユダヤ人床屋

<http://www.youtube.com/watch?v=xl2e69fEFf4>

# 表現とは何か？

「映画は音を得た時に  
一つの表現手段を失い、  
色を得た時にもうひとつ失った」

チャーリー・チャップリン

# 映画に「感動させるマニュアル」は存在しない

将来何をしてどんな職業につくにしても、若い時は「映画を見る、本を読み、絵を見に行け」と私はいいたいのです。そうする中で政治家になるかもしれない、作家になるかもしれない、俳優になるかもしれない、もしかしたら映画監督になるかもしれない、そういうものだと思うのですね。

映画は総合芸術です。いろいろな芸術表現、文学や音楽、絵画、演劇、そして歴史、政治、法律といったあらゆる要素が映画に集約されています。

だからこそ、さまざまな作品に触れ、たくさんのかんじたいと思っています。

映画に深く感動した経験を持つ人が少なくありません。「どうしたら感動的な映画をつくれるのかをしりたい」と思っている人もいますが、‘こうすれば感動するというマニュアル’など、どこにも存

在しないのです。

映像表現の巨匠として知られるチャールズ・チャップリンは「映画は音を得た時に一つの表現手段を失い、色を得た時にもうひとつ失った」という意味の言葉を残しています。

チャップリンは、表現者がそのすべてを映像に盛り込むのではなく、見る人のイマジネーションが映像に関わることを非常に大切なことととらえていました。

色が付いていない分、言葉にしない分、見る側の自由度は高くなります。チャップリンは、そこに、人の心を揺さぶる映像表現の優れた特質の一つをみていたと思われます。

早稲田大学の大学院国際情報通信研究科  
安藤紘平教授

# チャップリン主要映画一覧

## ◆キーストン時代

1914年『成功争ひ』Making a Living

1914年『ヴェニスの子供自動車競走』Kid Auto Races at Venice

1914年『醜女の深情』Tillie's Punctured Romance

## ◆エッサネイ時代

1915年『チャップリンの拳闘』The Champion

1915年『チャップリンの駈落』A Jitney Elopement

1915年『チャップリンの失恋』The Tramp

1915年『チャップリンの掃除番』The Bank

1916年『チャップリンのカルメン』Burlesque on Carmen

1916年『チャップリンの悔悟』Police

## ◆ミュージュアル時代

1916年『チャップリンの替玉』The Floorwalker

1916年『チャップリンの消防夫』The Fireman

1916年『チャップリンの放浪者』The Vagabond

1916年『午前一時』One A.M.

1916年『チャップリンの伯爵』The Count

1916年『チャップリンの番頭』The Pawnshop

1916年『チャップリンの舞台裏』Behind the Screen

1916年『チャップリンのスケート』The Rink

1917年『チャップリンの勇敢』Easy Street

1917年『チャップリンの霊泉』The Cure

1917年『チャップリンの移民』The Immigrant

1917年『チャップリンの冒険』The Adventurer

## ◆ファースト・ナショナル時代

1918年『犬の生活』A Dog's Life

1918年『公債』The Bond

1918年『担へ銃』Shoulder Arms

1919年『サニーサイド』Sunnyside

1919年『一日の行楽』A Day's Pleasure

1921年『キッド』The Kid

1921年『のらくら』The Idle Class

1922年『給料日』Pay Day

1923年『偽牧師』The Pilgrim

## ◆ユナイテッド・アーティスト時代

1923年『巴里の女性』A Woman of Paris

1925年『黄金狂時代』※The Gold Rush

1928年『サーカス』The Circus

1931年『街の灯』City Lights

1936年『モダン・タイムス』Modern Times

1940年『独裁者』The Great Dictator

1942年『黄金狂時代』サウンド版

(1925年の『黄金狂時代』にチャップリン自身の作曲とナレーションを施す)

1947年『殺人狂時代』Monsieur Verdoux

1952年『ライムライト』Limelight

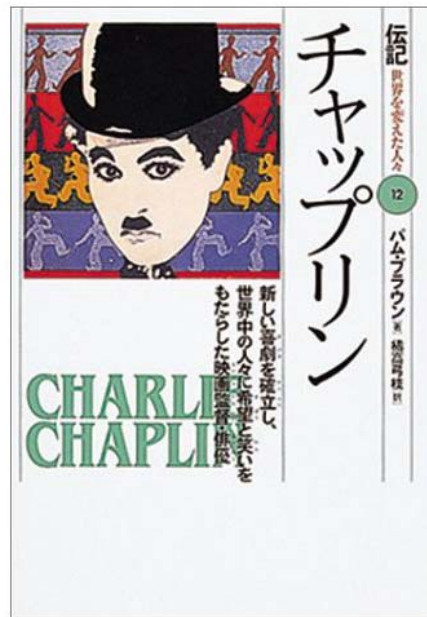
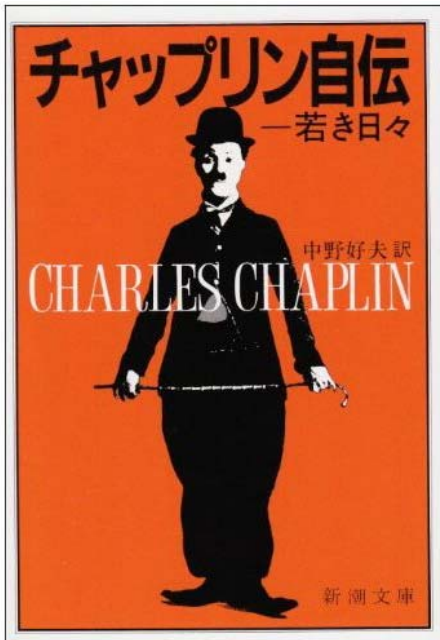
## ◆イギリスでの作品他

1957年『ニューヨークの王様』A King in New York

1959年『チャップリン・レビュー』The Chaplin Revue (『犬の生活』、『担へ銃』、『偽牧師』の3本をまとめ、チャップリン自身の作曲とナレーションを施して再編集した映画)

1967年『伯爵夫人』A Countess from Hong Kong (監督のみ、唯一のカラー作品、主演=ソフィア・ローレン、マーロン・ブランド)

# 引用・参考書籍



出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』